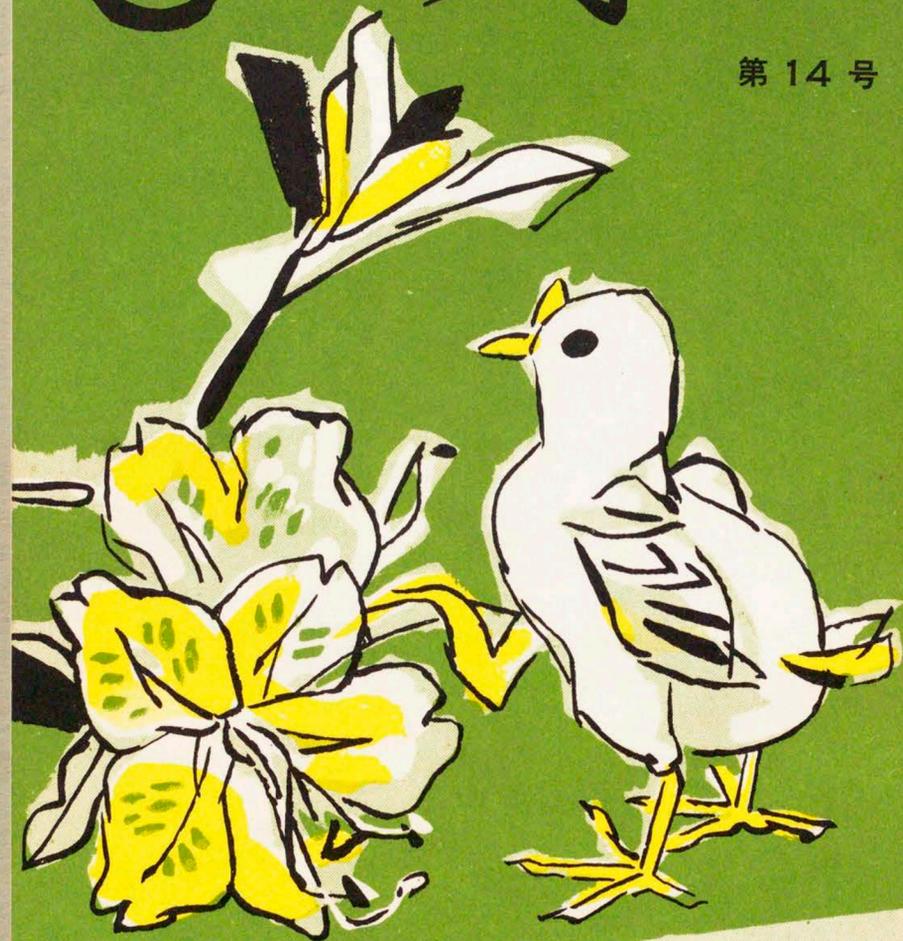


ひめまつ

第14号



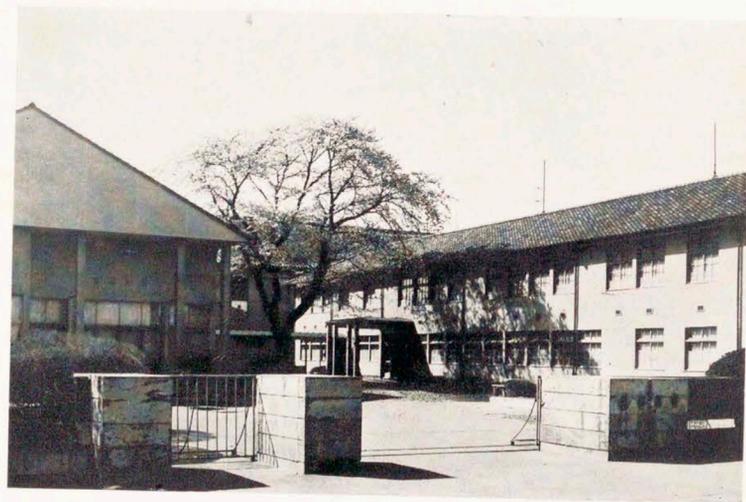
須賀学園生徒会





学校長 須賀友正

校 歌
 三葉の萬葉を 道かに仰ぎ
 学びの道筋を まさしく歩くと
 かたみに歩して いそみあはむ
 秋ののちのち けしきもなれ
 あはれ尊と こみずけや
 庭前に茂れる 雄松小松
 春のふれは 千代万代と
 かたみに祝ひて いそみあはむ
 学びの道こそ けしきもなれ
 あはれ尊と 此の学びや



講 堂 と 新 館

ひ め ま つ

第 14 号

目 次

巻 頭 言	……学校長 須賀友正	1
誌 に 寄 せ て	……菅野三郎	2
科 学 ず る 心	……永島恒男	3
鏝 阿 寺	……井上悠逸	5
峰 断 想	……服部美登	7
就 職 試 験	……村岡至	9
恋 と 若 菜 集 (藤村研究其一)	……文芸部	10
今 年 の あ し あ と	……	13
コ ー ラ ス 部	……	13
オ ー ケ ス ト ラ 部	……	14
弁 論 部	……	15
文 芸 部	……	18
バ ス ケ ッ ト ボ ー ル 部	……	21
文 集	……	23
詩	……	23
短 歌	……	34
俳 句	……	37
作 文	……	39
卒 業 生 に 贈 る 言 葉	……	49
一 年 ・ 二 年	……	
卒 業 に 際 し て 在 校 生 へ	……	49
卒 業 生 便 り	……	51
共 立 女 大	……島田刈音	51
上 野 百 貨 店	……水沼榮子	52
郷 土 食「下 野 嘉 例」	……谷中榮子	53
さ い は て を 行 く	……坂本文子	54
風 紀 便 り	……大堀ヨシ子	57
生 徒 会 便 り	……	58
昭 和 三 十 四 年 行 事 一 覧	……	68
職 員 住 所 録	……	69
編 集 後 記	……	70





巻頭言

校長 須賀友正

一九六〇年は、元旦から静かな、暖かい陽ざしにめぐまれて快調のスタートを切ったように思う。さて、一年は早いもので、又も「ひめまつ」の巻頭言を書く第三期を迎えることになった。思えば、今年度もわが学園は、まことに多事であった。世界情勢の大きい動きにつれて、日本の内外にも幾多の重大な問題が数えられる。それらの問題は、いずれも我々学園にとっても、生徒の皆さんにとっても、前向の姿勢で数歩前進させるものばかりであった。

本年度は、私学法制定十周年記念式典が行われた事、その記念として、校旗が制定され、校章が改定された事など、永い思い出となろう。

生徒会の活動は、ますます目覚ましく、ソフト部はじめ体育各部の活躍、弁論部の制覇等は、それを裏書するものである。戦後僅か十五年で、訪日の外人は、我々国民の生活が、案外に裕福であると、異口同音に感想をもらしている。このように、物心両面に美事に復興し、繁栄しているこの国で、私たちが、平和に、楽しく学習出来ることの幸福を心から感謝しなくてはならない。

それについても、感慨深いのは、今年、実に本学園創立六十周年に当るのである。六十年といえば、人の一生の長さにあたるのである。この六十年、我々学園は、陽のあたる道もあつたし、薄暗い道、平らな道、或は胸をつく坂道等を、祖国日本と共に歩みつづけて、今日の本学園にまで到達したのである。この六十年を振り返る時、どうしても前校長須賀栄子先生の教育的烟眼と功績とを改めて見なければならぬ。

創立六十周年を機会として、本年は、内外に別途の飛躍を遂げたいし、創立記念日には、盛大な記念行事を予定している。どうか職員生徒共々、和の精神に徹して、学園発展のために惜しみなき御協力をお願いしてやまない次第である。



校旗と校章



ソフトボール部



オーケストラ部

